

ポンペが日本で採集した動物標本について

金沢英作・神谷敏郎

ポンペ・ファン・メールデルフォールト (Johannes Lijdius Catherinus Pompe van Meerdervoort, 1829—1908) の日本における業績についてはほぼ研究されつくした感があるが、理化学研究官としての役割については十分評価されているとはいえない。我々はポンペが来日した際 (1855) 日本にもたらしたオランダ人頭蓋骨についての調査を進めていたが、その調査の途次、現地オランダのライデン自然史博物館でポンペの名前が収集者として付されている動物標本を見る機会を得た。シーボルト (P.F. von Siebold) のもたらしたものに比べるとその数は少ないが、これまでポンペが日本で収集した資料はほとんどが帰路の船の遭難のため失われた、と思われていたため、その難をまぬかれて、別便でオランダに到着したものについてはほとんど知られていないようである。

ポンペは周知のように一八五七年 (安政四年) 九月、江戸幕府の要請を受けて組織された第二次海軍伝習隊の一員として日本の地を踏んだ。当初のポンペの役割は長崎海軍伝習所での医学伝習であったが、丁度、時期を同じくしてオランダ商館医のファン・デン・ブルック (P.W.J. van den Broek, 雑田 1855—1857) が辞任したので、この後任としてオランダ商館医に任命され、同時に日本駐在自然科学調査官を兼任した。⁽⁶⁾ 医学伝習官としてのポンペの活躍と日本に与えた大きな影響については周知の通りであるが、自然科学調査官としてのポンペの役割はケンペル (E. Kempler, 雑田 1690—1692) ツェ

ンペリー (C.P. Thunberg, 雑日 1775—1776) / シーボント (P.F. von Siebold, 雑日 1823—1830, 1859—1863) / らの先人の偉大な業績の陰にかくれて全く目立たない。日本における博物学の歴史の中でもボンベの業績はほとんど知られていない⁽²⁾。これは収集した資料の多くが失われたため、それらの記載が不可能であったこと、彼の興味の中心が医学の伝導であり、地誌、自然史などの調査をする時間が少なかったこと、収集した標本はすでに先人によって記載され、新種の発見や珍しい見解が少なかったこと、などによるものと思われる。しかし、今回、我々が調査した多くの動物が、系統的に整理されて収集されていることから考えると、ボンベは自分の任務を十分に認識し、並々ならぬ努力を払って収集に当たったことがうかがえる。博物館には標本とともに動物名や収集者名がかなや漢字で書かれた古びた和紙も保存されている。それらを見ると、収集に当たったのはボンベ自身ばかりでなく、養生所の学生達も参加したことが推察される。

ライデン国立自然史博物館 (Rijks Museum van Natuurlijke Historie te Leiden, 図1) はライデン市の旧市街の中心通りであるブレー・シュトラート (Bree Straat) の南端にある。数年前までは一般に公開されていたが、現在では研究機関となり、特別な調査を目的とする人以外には公開されていない。

ボンベの標本に関して博物館側に残されている資料として最も重要なものはハイセン (Agatha Crijzen) 編著の博物館歴史記録⁽³⁾である。この中にボンベが当時の館長であったシュレーゲル (Schlegel) に送った標本や手紙に関する解説がある。半頁ほどの長さなのでその全文を日本語に訳して紹介しておく。

「シュレーゲルの一八六一年七月の依頼により、ボンベは日本の生物の収集とそれに関する費用の調査をはじめた。それまではまだ成果はなかったが、彼自身、収集を開始するであろう。この件に関してはボンベはすでによく知っているはずである。なぜなら彼(ボンベ)は一八五六年、日本を出発する前に(前館長であった)テミンク (Temminck) に会って話を聞いていたから。ボンベはすでにバリーにオオサンショウウオを送り、またブレーカー (P. Bleeker, 魚類部長) あてに魚を

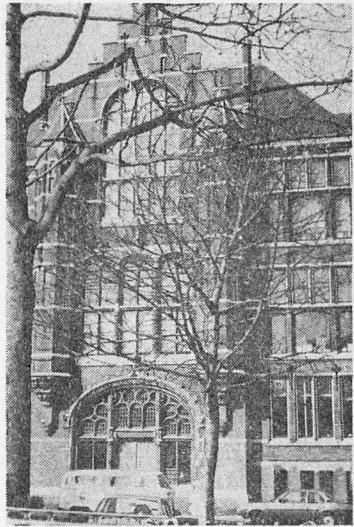


図1 ライデン・国立自然史博物館

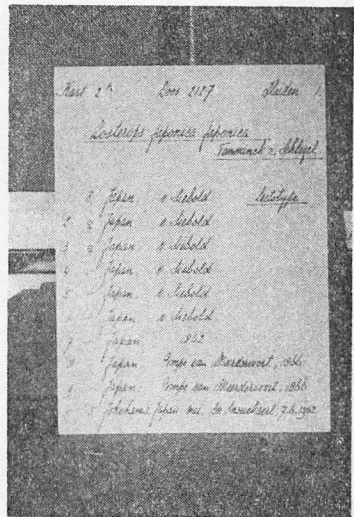


図2 検索カード例、メジロ、シーボルトとポンペの名が見られる

送った。それは彼の仕事上の義務である（一八六一年二月、シュレーゲルからの手紙）。ポンペは九州の鳥と野生動物をすでに集め、次いで魚類と昆虫が送られる予定である。それらの内容についてはポンペが帰国時に知らせてくれるであろう。ポンペは出島から日本本土に出るのが困難であり、それが収集をむずかしくしている、という（一八六二年六月三十日付ポンペからの手紙）。その年の十二月の（博物館の）記録によると、十三個体の哺乳類と百六個体の鳥類が受け取られた、とあり、翌二月には鉱物と化石が受け入れられている。ポンペは日本を発った後も収集が続けられるよう手配している。しかし、実際それが行われたかどうかは不明である。また、もう一つの動植物を含む荷物が送られたという情報がある。それ以外はすべて帰路の船の遭難で失われた。最後の便は十個体の哺乳類と三十五個体の鳥類である。」

ハイセンがこれを書いたのはすでにポンペが動物をオランダに送った頃から五十年程を経過しているため、記述にやや不明瞭な点がある。しかし、この記述から判断する限り、次のようなことがわかる。哺乳類は合計二十三個体、鳥類は百

表 1 哺乳類

種 名	和 名	個体数
Apodemus argenteus (Temm.)	ヒメネズミ	2
Apodemus speciosus (Temm.)	アカネズミ	2
Lepus brachyurus (Temm.)	ノウサギ	1
Lutra vulgaris (Erxleben)	カワウソ	1
Mustela melampus (Temm.)	イタチ	4
Nyctereutes viverrinus (Temm.)	ホンダタスキ	1
Pteromys leucogenys (Temm.)	ムササビ	3
Rattus rattus tanezumi (Temm.)	ニホンクマネズミ	3
Talpa wogura (Temm.)	アズマモグラ	3
計		20

註 Temm. は Temminck の略

四十一個体送られている。魚類は数は不明であるが、少なくとも二回送られている。昆虫は送られたかどうか不明である。化石と鉱石が送られている。

さて、我々はこれらの動物が実際にこの博物館にあるかどうかを確認する作業に入ったわけであるが、これは思っていたほど簡単ではなかった。いうまでもなく、標本は動物分類法に従って整理され、倉庫にしまわれている。標本の寄贈者は博物館の記録としては残っているが、動物の系統分類と保存を目的とする博物館の業務からすれば二次的なものである。したがって、ポンペの標本は特別にまとめられて保管されているわけではなく、他の何万という世界中からの標本に混って倉庫の隅々にしまわれている。シーボルトのニホンオオカミのような標本ならば館員も見せ慣れているのですぐ出してくるが、他の標本は寄贈者の名前からだけではどこに入っているのかわからない。ポンペの標本を見るには、標本ごとに作られたカード(図2)をしらみつぶしに検索し、寄贈者名の欄にポンペという名があったらそれを引き出して、倉庫で実物を確認するという作業を繰り返さねばならない。

さてこのような作業の結果、表1、2、3に示す動物が所蔵されていることが判明した。哺乳類は九種二十個体で、ハイセンの記載より三個

表 2 鳥 類

種 名	和 名	個体数
<i>Alcedo atthis japonica</i> (Bonap)	カワセミ	4
<i>Anas acuta</i> (L.)	オナガガモ	1
<i>Butorides striatus amrensis</i> (Schrenck)	ササゴイ	3
<i>Columba janthina janthina</i> (Temm.)	カラスバト	1
<i>Columba livia</i> (Gmelin)		1
<i>Coturnix coturnix japonica</i> (Temm. & Schl.)	ウズラ	1
<i>Dendrocopos kizuki kizuki</i> (Temm.)	キュウシュウコゲラ	1
<i>Dendronessa galericulata</i> (L.)		2
<i>Jynx torquilla japonica</i> (Bonap)	アリスイ	1
<i>Larus crassirostris bicill</i>	ウミネコ	3
<i>Mesophox intermedia intermedia</i> (Wagler)		1
<i>Nycticorax nycticorax</i> (L.)	ゴイサギ	2
<i>Otus bakkamoena semitorques</i> (Temm. & Schl.)	オオコノハズク	3
<i>Picus awokera</i> (Temm.)	アオゲラ	6
<i>Podiceps ruficollis japonicus</i> (Hart)	カイツブリ	1
<i>Scolopax rusticola</i> (L.)	ヤマシギ	1
<i>Sphenurus sieboldii sieboldii</i> (Temm.)	アオバト	4
<i>Streptopelia orientalis orientalis</i> (Latham)	キジバト	3
<i>Strix uralensis fuscescens</i> (Temm. & Schl.)	フクロウ	1
<i>Syrnaticus soemmerringii</i> (Temm.)	ヤマドリ	2
<i>Erithacus calliope</i> (Pallas)	ノゴマ	1
<i>Erithacus cyanurus cyanurus</i> (Pallas)	ルリビタキ	4
<i>Phoenicurus aureus aureus</i> (Pallas)	ジョウビタキ	2
<i>Turdus naumanni eunomus</i> (Temm.)	ツグミ	3
<i>Turdus pallidus</i> (Gmelin)	シロハラ	4
<i>Zostertha dauma toratugumi</i> (Momiya)	トラツグミ	4
<i>Zosterops japonica japonica</i> (Temm. & Schl.)	メジロ	2
	小 計	62
未分類標本		約 60
	計	約122

註 Temm. は Temminck, L. は Linné, Schl. は Schlegel の略

表 3 魚 類 (Bleeker による)

A. 淡水魚又は沿岸性の魚類	
<i>Platycephalus insidiator</i> Bl. Schl.	(コチ)
<i>Gobius gymnauchen</i> Blkr, nov. spec.	(ヒメハゼ)
<i>Gobius macrognathos</i> Blkr, nov. spec.	(エドハゼ)
<i>Pseudobagrus aurantiacus</i> Blkr.	(ギバチ)
<i>Cobitichthys dichachrous</i> Blkr, nov. spec.	
<i>Cobitichthys polynema</i> Blkr, nov. spec.	(ヒゲハゼ)
<i>Acheilognathus melanogaster</i> Blkr, nov. spec.	
<i>Cyprinus flavipinnis</i> K. v. H.	
<i>Cyprinus melanotus</i> T. Schl.	
<i>Carassius auratus</i> Nilss, monstros. diversae.	(フナ)
<i>Carassius Bürgeri</i> T. Schl.	
<i>Pseudorasbora pusilla</i> Blkr.	(モツゴ)
<i>Aplocheilos latipes</i> Blkr.	(メダカ)
<i>Harengula zunasi</i> Blkr.	(サッパ)
<i>Salanx microdon</i> Blkr.	(シラウオ)
<i>Anguilla japonica</i> T. Schl.	(ウナギ)
B. 海水魚	
<i>Cestracion zebra</i> Gr.	(シマネコザメ)
<i>Squatina japonica</i> Blkr.	(カスザメ)
<i>Rhinobatus Schlegelii</i> MH.	(サカタザメ)
<i>Raja kenojei</i> Bürg.	(ガンギエイ)
<i>Trygon akajei</i> MH.	(アカエイ)
<i>Monacanthus komuki</i> Blkr.	
<i>Monacanthus oblongus</i> T. Schl.	(ナガハギ)
<i>Monacanthus trachyderma</i> Blkr, nov. spec.	
<i>Gastrophysus rubripes</i> Blkr.	(トラフグ)
<i>Gastrophysus xanthopterus</i> Blkr.	(シマフグ)
<i>Platessa cornuta</i> T. Schl.	(カレイの一種)
<i>Aesopia japonica</i> Blkr, nov. spec.	(ウシノシタ)
<i>Lophius setigerus</i> Wahl.	(アンコウ)
<i>Antennarius tridens</i> Blkr.	(イザリウオ)
<i>Callyodon japonicus</i> T. Schl.	(タイの一種)
<i>Cossyphus reticulatus</i> CV.	
<i>Myripristis japonicus</i> CV.	
<i>Priacanthus nipponicus</i> CV.	(クルマダイ)
<i>Monocentris japonicus</i> Bl. Schl.	(マツカサウオ)
<i>Centropristes hirundinaceus</i> CV.	(ヒメコダイ)
<i>Serranus octocinctus</i> T. Schl.	
<i>Serranus trimaculatus</i> CV.	

表3のにつつき

<i>Serranus tsiremenara</i> T. Schl.	
<i>Diagramma cinctum</i> T. Schl.	
<i>Diagramma punctatum</i> Ehr.	
<i>Mesoprion ophuysenii</i> Blkr.	
<i>Dentex griseus</i> T. Schl.	
<i>Dentex hypselosoma</i> Blkr.	
<i>Dentex setigerus</i> T. Schl.	
<i>Scolopsides inermis</i> T. Schl.	(タマガシラ)
<i>Chrysophrys aries</i> T. Schl.	(ヘダイ)
<i>Cheilodactylus zonatus</i> CV.	
<i>Melanichthys crenidens</i> Blkr.	
<i>Apogon lineatus</i> T. Schl.	(テンジクダイ)
<i>Apogonichthys carinatus</i> Blkr.	(マトイシモチ)
<i>Sebastes marmoratus</i> CV.	
<i>Pterichthys alatus</i> Swns.	
<i>Upeneus chrysopleuron</i> Blkr.	(ウミヒゴイ)
<i>Upeneoides bensasi</i> Blkr.	(ヒメジ)
<i>Holacanthus septentrionalis</i> T. Schl.	
<i>Amphacanthus fuscescens</i> CV.	
<i>Naseus scalprum</i> Blkr.	
<i>Uranoscopus asper</i> T. Schl.	
<i>Trigla Bürgeri</i> T. Schl.	
<i>Platycephalus macrolepis</i> Blkr.	(アネサゴチ)
<i>Platycephalus Meerdervoortii</i> Blkr, nov. spec.	(メゴチ)
<i>Platycephalus spinosus</i> T. Schl.	(オニゴチ)
<i>Bembras japonicus</i> CV.	(アカゴチ)
<i>Hoplichthys Langsdorffii</i> CV.	(ナツハリゴチ)
<i>Callionymus longicaudatus</i> T. Schl.	(スメリゴチ)
<i>Percis pulchella</i> T. Schl.	(イスゴチの一種)
<i>Percis sexfasciata</i> T. Schl.	
<i>Gobius flavimanus</i> T. Schl.	(マハゼ)
<i>Chaeturichthys polynema</i> Blkr.	
<i>Periophthalmus modestus</i> T. Schl.	(トビハゼの一種)
<i>Cepola Krusensternii</i> Blkr.	(アカタチ)
<i>Carassius auratus</i> Nilss.	(フナ)
<i>Conger anago</i> T. Schl.	(ゴテンアナゴ)
<i>Conger vulgaris</i> Cuv.	(クロアナゴ)
<i>Myrophis uropterus</i> Blkr.	(ヒレアナゴ)
<i>Muraena albimarginata</i> T. Schl.	(ヘリシロウツボ)

註 T.Schl. は Temminck and Schlegel の略, Blkr は Blecker, Cuv., CV は Cuvier, Bürg は Bürger の略, その他の略名は不明. nov. spec. は新種. 学名が古いいため現在の和名を検索できないものも多い.

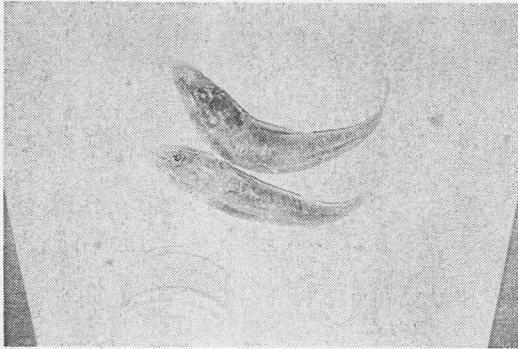


図 3 ポンペの標本, *Platycephalus meerdervoortii*

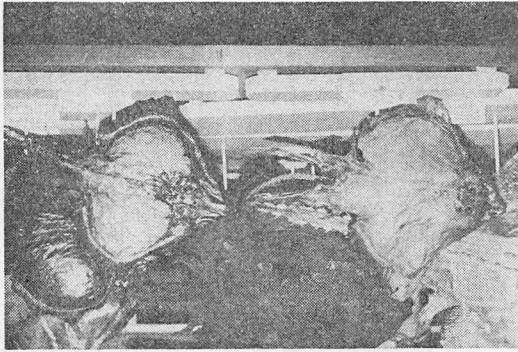


図 4 ポンペの標本, *Raja meerdervoortii* (左)

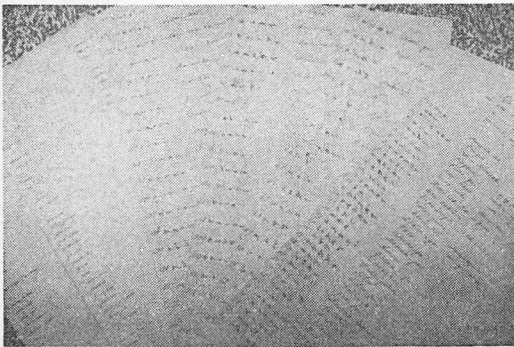


図 5 貝類のリスト

体少ない。現在の日本では少なくなった動物(カワウソ)も含まれるが、特に珍しいものはない。種としての記載はすでにシーボルトの標本などをもとにシュレーゲルの前館長であったテミンクによってなされた。鳥類は整理されて確認されたものが二十七種、六十五個体で、このほかに未整理分(カードが作られていないもの)が六十個体ほどある。ハイセンの記載している百四十一個体よりはやや少ない。これらの中にも新種として記載されたものはない。

ポンペの標本のうち魚類だけはブレーカーによって分類、整理され、その分類学的研究が報告されている。⁽⁴⁾これによると七十八種の魚類が博物館に届いており、そのうちの八種が新種であった。これらにはブレーカーによる命名が行われ、さらにその中の二種にはポンペの名前が冠された。その二種とは表中の *Platycephalus meerdervoortii* (「こち」の一種、図3)

と表中には Raja Kenojei (ガンギエイ) と記されているが、後年、ブレイカーがこの中に新種として認めた Raja Meerdevoorii (「スゴ」の一種、(4) 図4) である。この事実はブレイカーがポンペの業績を十分に評価したことの表れであろう。魚類は陸上の動物に比べて数も多く、また発見される機会が少ないので、新種の発見が時代的に新しくなる。ポンペの標本の中に八種もの新種があったのはそのような理由によるのであろう。

ポンペの収集した日本の動物標本の数はシーボルトのもたらしたものに比べてはるかに少ないものの、まとまった日本の標本としてはそれに次ぐものである。シーボルトにはビュルガー (H. Bürger) という有能な助手がいたのに対し、ポンペにはそういう助手がいなかったのは標本の収集、整理という点で不利であった。また、先に述べた、いくつかの理由もポンペのコレクションに不利な要素として働いた。しかし、これらの不利な条件の中でも自然科学調査官としての責任を果したポンペの強い目的遂行意識は医学の精力的な伝導と軌を一にするものであろう。

なお、最後にこの他の標本のことを述べておくと、貝類はリストのみ到着し (図5)、実物は未着。昆虫類は無し。送られたかどうか不明。動物ではないが、鉱石、化石類はライデン市、鉱物博物館に保存されている。これらは当初、七箱ほどあったが、一九八二年夏、大幅に整理されて、一箱となった。なお、この他、ライデン大学附属腊葉館 (Rijks Herbarium) に植物が若干届いているといわれるが、今回、その調査は行えなかった。

稿を終えるに当たり、調査のご便宜を計られた、ライデン自然史博物館学芸員・スマーンク博士、ファン・オイエン博士に感謝の意を表します。また、ポンペの標本についてご教示をいただいた東京学芸大学・大沢真澄教授に厚く御礼申し上げます。本研究の一部は一九八四年二月の医史学会例会 (順天堂大学) にて発表しました。

文獻

- (1) 神谷敏郎、金沢英作、オランダ医官ポンペが我が国にもたらした頭蓋骨の由来に関する調査、日本医史学雑誌、投稿中、昭和五十九年。
- (2) 上野益三、日本博物学史、平凡社、昭和四十八年。
- (3) Agatha Gijzen: 's Rijks Museum van Natuurlijke Historie, 1820—1915, p. 135, Leiden National Museum of Natural History.
- (4) Bleeker, P.: Zesde bijdrage tot de kennis der visfauna van Japan. Acta Soc. Sc. Indo-Neerl., 8: 1-104, 1860.
- (5) Boeseman, M.: Some remarks on the identity of the Japanese rays *Raja kenjei* Müller & Henle, 1841, and *Raja meerdervoortii* Bleeker, 1860. Zoologische Mededelingen, 53: 273-281, 1979.
- (6) Pompe van Meerdervoort, J.L.C.: Vijf jaren in Japan, Firma van den Heuvel en van Sauten, Leiden, 1867.

Japanese Animals collected by Pompe van Meerdervoort

by

Eisaku KANAZAWA and Toshiro KAMIYA

J.L.C. Pompe van Meerdervoort was a medical doctor who visited Japan (Nagasaki) in 1857 as a member of the Dutch naval detachment. His successful work in teaching and practicing medicine and its influence in Japan were much admired. However, his work in the collection of animals and other natural specimens has not been well known, because most of his collection were thought to have been lost in a shipwreck on his way back from Japan to his country in 1862. In 1982, we found many animal specimens sent by Pompe stored in the National Museum of Natural

History, Leiden, Netherlands. The collection was rather large second only to Siebold's collection, including 20 mammals, about 120 birds, 78 fishes and some amount of stones. These specimens were sent by another ship when he was still in Japan. Descriptions of new species were made on 8 species of fishes.